

経済学部長

久保廣正

2020 年、我々の社会はコロナ禍に見舞われ、未曾有の危機に直面しました。こうした環境の中であって、摂南大学経済学部では、キャンパス閉鎖、その後の遠隔授業、対面授業、あるいは遠隔と対面を組み合わせたハイブリッド授業など、様々な工夫をこらしながら質の高い授業を行うことに全力をあげて努力し、2021 年を迎えました。

一方、これまで国内各地、さらには海外の大学に学生を派遣し、実践演習を展開してきましたが、中止せざるをえませんでした。これらの演習活動は、経済学部の特色の一つともいえますので、担当する教員にとっては誠に断腸の思いでありました。さらに、従来、内外から著名研究者を招聘しセミナーなど研究会を開催してきましたが、これも実現できませんでした。

コロナ禍という厳しい状況の下であっても、質の高い教育、研究を維持するために努力を傾けてきたことを紹介しておきたいと思います。従来、学生のプレゼンテーション力強化を目的として、ゼミ対応プレゼン大会、及び卒業論文発表会などを設けてきました。今年度は、これら両発表会を統合して研究発表会とし、すべての発表をオンラインで行いました。発表内容は、従来の大会に比して遜色がないものとなりました。

また、本年 2 月には、従来から学术交流を深め、本学部生の留学を受け入れてきてくれたイタリア・ミラノにある IULM 大学へ「オンライン留学」を実施することを計画しております。加えて、オーストリアのインスブルック大学で本学部教員がオンライン授業を展開するというもありました。さらに、研究面でも、多くの教員が内外の学会にオンラインで参加しております。

最後に、コロナ禍という未曾有の危機に直面しても、このように本学部では教育研究の歩みは止まっていないことを強調したいと思います。従って、コロナ禍が収束すれば、本学部の教育・研究活動が一層活発化するものと期待しております。